



# 『サーカスのライオン』50年

じんざはやっぱり かえってきた

届けられた手紙と絵本にない原画

登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室

2023年10月1日(日)~12月20日(水)



管理人 やかた NPO 法人うちの館

〒637・0016 奈良県五條市近内町 526

月曜休館 祝日の時は開館して翌日休館 9時~16時

高校生以上 300円 小中学生 200円

0747 (22) 4013

<http://www.uchinono-yakata.com>

ホームページ うちの館でご検索下さい





# 『サーカスのライオン』50年

じんざはやっぱり かえってきた

届けられた手紙と絵本にない原画

登録有形文化財「藤岡家住宅」

2023年10月1日(日)～12月20日(水)



サーカスイラスト 川村明日香「サーカスのライオン・スワヒリ語訳」表紙



絵本『サーカスのライオン』(作 川村たかし・絵 斎藤博之 ポプラ社 1972年初版)が出版されて50年が過ぎました。小学国語3年生(東京書籍)に掲載され、50年の間に全国の3年生からたくさんの「じんざへの手紙」が届きました。子供たちの描いたライオンのじんざと、絵本に使われなかった原画(斎藤博之画)を展示します。

あらすじ 町にサーカスがやってきました。サーカス一番に人気者ライオンのじんざは、火の輪くぐりが得意です。ジャンプして、一気に3つの火の輪をくぐることができます。けれど、じんざは最近、元気がありません。だんだん年をとって、ふるさとのアフリカを思いだすようになったからです。火の輪くぐりも、若いころは5つできたのにと、じんざは思っていました。ある夜、さびしそうなじんざのようすを見て、ライオン使いのおじさんが、「ちょっとさんぽでもしておいで」と、洋服と帽子とマスクと靴を貸してくれました。さんぽにでかけたじんざが星を見上げていると、男の子が声をかけました「おじさんは、サーカスのおじさん？」男の子はサーカスが大好きで、ライオンが大好きだと言いました。「でもきょう、サーカスのライオンを見にいったら、なんだかしょげていたの。だからお見舞いに来たんだよ。」じんざとは気がつがずに、男の子は、お母さんが入院していて、お父さんが病院にお見舞いに行き、一人で留守番をしていることを話しました。じんざは男の子をアパートまで送っていきました。男の子の家は、高い石垣の上のアパートの5階にありました。送っていく途中、じんざは、人間のように2本の足で歩いていたので、片方の足をみぞにつこんでくじいてしまいました。次の日、男の子はまたサーカスを見にきて、ライオンのおりまで、おみやげのチョコレートをもってきてくれました。ライオンが道で出会った人とは気がついていないようすです。じんざは、チョコレートは苦手でしたが、うれしくて、チョコレートをうけとることにしました。じんざは、若いときのように、火のわを5つくぐってみせてやろうと思うのでした。

明日この町でサーカスの公園が終わろうとする夜、じんざは消防車のサイレンを聞きました。男の子のアパートが火事です。じんざは、男の子を助けようと、おりを壊して飛び出しました。



子どもたちからじんざへの手紙

〒637・0016 奈良県五條市近内町 526

高校生以上 300円 小中学生 200円 9時～16時

月曜休館 祝日の時は開館して翌日休館 0747(22)4013

<http://www.uchinono-yakata.com>

ホームページ うちの館でご検索下さい